

資料

## 岩手北部地震

岩手県災害対策本部活動

# 岩手・宮城内陸地震、 岩手北部地震におけるDMAT活動 行政から

岩手県保健福祉部  
真瀬 智彦

## 被害状況

平成20年8月25日現在

区分		岩手・宮城内陸地震	岩手北部沿岸地震
人的被害	死者	2	0
	重傷者	9	24
	軽傷者	28	66
	計	39	90
住家被害	全壊	2	0
	半壊	4	0
	一部損壊	460	108
	計	466	108
土木施設被害		約166億円	約6億円
農業関係被害		約24億円	約9千6百万円
林業関係被害		約82億円	約4億円
商工関係被害		約2億円	約2億円
被害総額		約296億円	約17億円

## 岩手・宮城内陸地震における主な初動対応

【6月14日(土)】

- 08:43 震度6強の地震発生、**岩手県災害対策本部設置**
- 08:55 県防災ヘリに情報収集のための発進指示
- 09:26 防災ヘリ T.O  
自衛隊に情報収集及び派遣準備を要請
- 09:27 消防庁へ**緊急消防援助隊**の出動要請
- 09:45 **第1回災害対策本部会議開催**
- 10:30 岩手駐屯地からLO到着
- 10:35 死者2名確認
- 10:50 **一関市からの要請に基づき自衛隊に災害派遣要請**
- 11:00 R342の孤立情報
- 11:25 胆沢ダム周辺林道で17人乗りバスの転落情報
- 12:15 **航空自衛隊ヘリが転落バスの乗客を救出開始**  
16:00救出完了
- 13:00 **第2回災害対策本部会議開催**
- 13:30  
～ 孤立住民の救出活動
- 19:20

## 岩手県災害対策本部

- 本部長(知事)
- 本部長(副知事、総務部長、保健福祉部長、県警本部長、医療局長、……)



### 調整本部会議

(消防緊急援助隊調整会議)  
盛岡広域消防事務組合  
被災地消防  
緊急援助隊指揮隊  
防災航空隊

←……→ 自衛隊

←→ 海上保安庁

←→ 岩手県警

## 岩手県の組織(災害医療関係部署)

県庁(本庁)

総務部

総合防災室(災害対応)

保健福祉部

医療国保課(災害医療)

医療局(県立病院)



県総合防災室は、DMATが活動していること自体を把握していなかった。

災害のど真ん中にいながら情報伝達と指揮命令系の外に置かれDMATは「孤立」してしまった。

岩手日報 平成20年7月5日

## 岩手県沿岸北部地震における主な初動対応

【7月24日(木)】

- 00:26 震度6強の地震発生、岩手県災害対策本部設置
- 00:45 自衛隊災害派遣要請、緊急消防援助隊要請
- 01:20 第1回災害対策本部会議開催
- 03:13 東北自動車道、八戸自動車道は全面通行可能
- 03:10 自衛隊(岩手駐屯地)派遣部隊20名、洋野町へ出発
- 03:20 緊急消防援助隊 盛岡市アイスアリーナに集結
- 03:50 ヘリ運用予定会議
- 06:20 第1回調整本部会議
- 07:35 政府調査団 三沢着、ヘリで種市運動場へ
- 08:00 第2回災害対策本部会議開催
- 08:10 第2回調整本部会議
- 09:30 知事 記者会見
- 09:45 ヘリ偵察開始(5機)
- 11:45 第3回調整本部会議
- 13:50 緊急消防援助隊の要請解除について知事の指導受け
- 15:00 緊急消防援助隊 解団式
- 17:00 第3回災害対策本部会議開催

## 岩手県災害対策本部

- 本部長(知事)
- 本部長(副知事、総務部長、保健福祉部長、県警本部長、医療局長、……)

調整本部会議  
(ヘリ運行調整会議)

調整本部会議  
(消防緊急援助隊調整会議)  
盛岡広域消防事務組合  
被災地消防  
緊急援助隊指揮隊  
防災航空隊

自衛隊

海上保安庁

岩手県警

国土交通省

DMAT

## 調整会議での情報内容

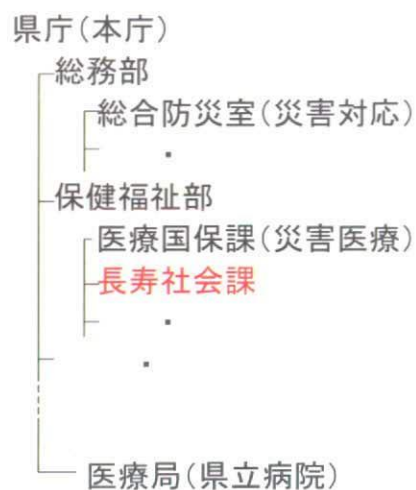
- **総合防災室**  
発災から現在までの経過  
(各機関の状況、被災状況等)
- **消防**  
県内各消防本部からの被災状況、救急搬送状況等  
緊急消防援助隊  
被災地区消防本部(久慈、宮古、二戸)からの報告
- **警察**  
各警察管内の被災状況(人的、物的)  
警察の警備体制  
広域緊急援助隊

## 調整会議での情報内容

- **国土交通省**  
道路規制状況  
(全面通行止、大型通行止、片側通行止等)
- **海上保安庁**  
巡視船、固定翼機での状況
- **自衛隊**  
自衛隊の動員規模
- **DMAT**  
DMATの参集・活動状況
- **航空機(ヘリコプター)の状況報告**



## ここで私の立場



## 県災害対策本部 DMAT連絡・調整員の動き

- 00:26 発災
- 00:45 県庁到着
- 02:03 山形県中森野先生から電話
- 02:10 総合防災室へ
  - PC、災害優先電話確保
- 02:55 災害医療センターから参集拠点をどこに？
- 04:04 参集拠点を岩手医大に
  - 岩手DMAT2隊を久慈に派遣
- 06:20 第1回本部調整会議参加
- 07:00 現地DMAT本部に調整会議内容を報告
- 08:10 第2回本部調整会議参加
- 11:45 第3回本部調整会議参加
- 12:20 現地DMAT本部に報告

## 運用可能なヘリコプター

### 条件

発災時間  
天候

- 警察 3機
- 国交省 4機
- 消防 9機
- 自衛隊 41機
- 海保 3機
- 計 60機

岩手宮城内陸地震  
救出に参加したヘリコプター

- 消防防災 10機
- 警察 4機
- 海上保安庁 4機
- 自衛隊 3機
- 計 21機

- 現地DMAT本部  
(岩手医大)
- 県災害対策本部  
(県庁)
- ヘリポート  
(県警本部)

## 今後の課題

- 岩手県におけるDMAT運用計画の策定
  1. DMAT派遣要請
  2. 調整本部会議に災害医療の主管課との共同での参加
  3. DMAT病院の所管部署
- 現地(市町村)対策本部へのDMAT調整員の派遣
- DMAT間の連絡手段
  1. 衛星電話等
  2. 消防との連携



## 平成20年度広域医療搬送実動訓練反省検討会

日時：平成20年10月28日(火) 14:00～17:00

場所：東京医科歯科大学医学部附属病院16階大会議室

厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業

「健康危機・大規模災害に対する初動期医療体制のあり方に関する研究」

研究代表者 国立病院機構災害医療センター 名誉院長 辺見 弘

分担研究「広域医療搬送のあり方に関する研究」

研究分担者 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 救急災害医学分野教授 大友 康裕

## H20 広域医療搬送実動訓練反省検討会出席者名簿

日 時 : 平成20年10月28日(火) 14:00～17:00

場 所 : 東京医科歯科大学医学部附属病院16階大会議室  
(東京都文京区湯島1-5-45)

### 【研究代表者】

独立行政法人国立病院機構災害医療センター 名誉院長 辺見 弘

### 【研究分担者】

東京医科歯科大学大学院 救急災害医学 教授 大友 康裕

### 【研究協力者等】

国立病院機構災害医療センター 臨床研究部長	小井土雄一
国立病院機構災害医療センター 救命救急センター部長	本間 正人
日本医科大学付属病院 高度救命救急センター	近藤 久禎
兵庫県災害医療センター 副センター長	中山 伸一
富山大学大学院 危機管理医学 教授	奥 寺 敬
防衛省航空幕僚監部 首席衛生官空将補	山田 憲彦
山形県立救命救急センター 診療部長	森野 一真
国立病院機構災害医療センター 教育研修室長	楠 孝 司
金沢大学大学院 救急医学 教授	稲葉 英夫
国立病院機構金沢医療センター 循環器科医長	坂上 学
国立病院機構九州医療センター 救急部長	小林 良三
大阪市立大学大学院 教授	溝端 康光
徳島県立中央病院 救命救急センター医長	三村 誠二
国立病院機構長崎医療センター 救命救急センター部長	高山 隼人
国立病院機構長野病院 看護師長	高野 博子
国立病院機構災害医療センター 看護師長	佐藤 和彦

【行政関係】

厚生労働省医政局指導課指導課 災害医療対策専門官	道上 幸彦
内閣府政策統括官（防災担当）付災害応急対策担当参事官補佐	原口 義寛
内閣府政策統括官（防災担当）付災害応急対策担当参事官付	川部 浩史
防衛省運用企画局事態対処課国民保護・災害対策室 防衛事務官	久富麻都佳
防衛省統合幕僚監部運用部運用2課災害派遣班 2等空佐	桐川 太郎
航空幕僚監部主席衛生官付衛生担当衛生官 1等空佐	石川 誠彦
航空自衛隊航空機動衛生隊長 2等空佐	野上弥志郎
防衛医科大学校 防衛医学講座 助教	武井英理子
東京都福祉保健局医療政策部救急災害医療課 災害医療係長	岡本 昌弘
神奈川県保健福祉部保健福祉総務課 健康危機管理班 副主幹	平山 顕雄

【オブザーバー】

(株) NTTデータ医療福祉事業部

【事務局】

国立病院機構災害医療センター 管理課庶務係長	小池 隆之
国立病院機構災害医療センター 管理課庶務係	藤井美香子
国立病院機構災害医療センター 管理課庶務係	福山 愛

厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業

「健康危機・大規模災害に対する初動期医療体制のあり方に関する研究」

研究代表者 国立病院機構災害医療センター 名誉院長 辺見 弘

分担研究「広域医療搬送のあり方に関する研究」

研究分担者 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 救急災害医学分野教授 大友康裕

## H20 広域医療搬送実動訓練反省検討会

日時：平成20年10月28日(火) 14:00～17:00

場所：東京医科歯科大学医学部附属病院16階大会議室  
(東京都文京区湯島1-5-45)

- |                |                     |       |
|----------------|---------------------|-------|
| 1. 研究代表者挨拶     | 国立病院機構災害医療センター名誉院長  | 辺見 弘  |
| 2. 研究分担者挨拶     | 東京医科歯科大学大学院 教授      | 大友 康裕 |
| 3. 厚生労働省挨拶     | 大臣官房厚生科学課健康危機管理対策室長 | 浅沼 一成 |
| 3. 厚生労働省挨拶     | 医政局指導課災害医療対策専門官     | 道上 幸彦 |
| 4. 内閣府(防災担当)挨拶 | 災害応急対策担当参事官補佐       | 原口 義寛 |

### 5. 活動報告

1) 訓練の概要 NHO災害医療センターDMAT事務局 楠 孝司

2) 関係省庁訓練総括 内閣府(防災担当) 原口 義寛

#### 3) DMAT活動

- |                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
| ① 参集活動：小松飛行場            | 稲葉 英夫 (金沢大学大学院)     |
|                         | 阪上 学 (NHO金沢医療センター)  |
| ② 参集活動：福岡空港・C-1機内活動     | 小林 良三 (NHO九州医療センター) |
| ③ 被災地内拠点 SCU 活動：関西国際空港  | 溝端 康光 (大阪市立大学大学院)   |
| ④ 被災地内災害拠点病院活動：泉佐野病院    | 中山 伸一 (兵庫県災害医療センター) |
| ⑤ 被災地外拠点：徳島飛行場・CH47機内活動 | 三村 誠二 (徳島県立中央病院)    |
| ⑥ 被災地外拠点：長崎空港           | 高山 隼人 (NHO長崎医療センター) |
| 4) 患者情報管理システム           | 近藤 久禎 (日本医科大学)      |
| 5) アンケートの集計             | 高野 博子 (NHO長野病院)     |

### 6. 検証・討議

### 7. その他

## 資料

### 平成20年度広域医療搬送実動訓練報告

- 1) 平成20年度広域医療搬送実動訓練の概要  
(DMAT事務局)
- 2) 内閣府(防災担当)
- 3) 被災地外参集拠点(小松飛行場)
- 4) 被災地外参集拠点(福岡空港)
- 5) 被災地内搬送拠点(関西国際空港)
- 6) 被災地内災害拠点病院(市立泉佐野病院)
- 7) 被災地外搬送拠点(長崎空港)
- 8) 被災地外搬送拠点(徳島飛行場)
- 9) 広域医療搬送実動訓練参加者アンケート結果

資 料

平成20年度広域医療搬送実動訓練の概要  
(DMAT事務局)



## H20 広域医療搬送実動訓練の概要

国立病院機構災害医療センター  
DMAT 事務局 楠 孝司

### 目的

関係機関及び DMAT 隊員が広域医療搬送の運用、役割等を理解し習熟を図るとともに課題等を抽出し、検証することにより広域医療搬送計画等の改善に資することを目的とする。

### 想定

平成 20 年 9 月 1 日（月）6:30 紀伊半島沖で発生した M8.6 の地震（東南海・南海地震）被害に対し、大阪府は国との協議により広域医療搬送の実施を決定。

### 概要

近畿府県合同防災訓練と連携した訓練

#### 1. 参集・搬送拠点

- ・ 被災地内搬送拠点 関西国際空港
- ・ DMAT 参集拠点
  - 1) 航空自衛隊小松飛行場
  - 2) 海上自衛隊徳島航空基地
  - 3) 福岡空港
  - 4) 羽田空港
- ・ 被災地外搬送拠点
  - 1) 長崎空港
  - 2) 海上自衛隊徳島航空基地
- ・ 被災地内災害拠点病院
  - 1) 泉佐野病院
  - 2) ちきりアイランド（仮想災害拠点病院）



### 3. 訓練参加 DMAT

#### (参集場所)

・ 小松飛行場参集	8チーム	36名	
・ 福岡空港参集	6チーム	22名	
・ 徳島飛行場参集	4チーム	20名	
・ 関西国際空港参集	3チーム	17名	
・ 泉佐野病院支援	2チーム	10名	
・ 長崎空港 SCU	6チーム	27名	
・ 徳島飛行場 SCU	7チーム	36名	
	参加者 計	36チーム	168名
・ インスト 38名	DMAT 計		206名
・ DMAT協力者 36名	DMAT関連 計		242名

#### (活動内容)

・ 関西空港 SCU活動	13チーム	63名	
・ 泉佐野病院支援活動	2チーム	10名	
・ C-1機内活動	6チーム	22名	(模擬患者含む)
・ CH47機内活動	2チーム	10名	(模擬患者含む)
・ 被災地外拠点担当(長崎)	6チーム	27名	
・ 被災地外拠点担当(徳島)	7チーム	36名	

### 4. 訓練項目及び特徴

#### 【参集】

- ・ 省庁、地方自治体及び関係機関等とDMATの情報伝達
- ・ DMATの参集及び被災地内広域搬送拠点までの派遣
- ・ 参集担当の統括DMATの役割と連携
  - 参集拠点及び被災地外拠点に統括DMATの配置。
  - 統括DMATの役割の明確化
- ・ 資機材の確保と携行
- ・ 民間空港及び民間航空機への搭乗手続き(福岡空港)
  - 福岡空港からの定期便による参集
  - 参集場所の確保
  - 携行資機材の搭載

#### 【被災地内SCU】

- ・ 被災自治体と連携したSCU設置及び運営
  - 民間空港を被災地内拠点に使

- 民間空港のセキュリティへの対応
- 空港事務所・空港消防との連携
- 空港消防車庫の活用
- 消防資機材・車両等の利用の可否
- ・ SCU 担当の統括 DMAT の役割と連携
- ・ 参集 DMAT への役割配分
- ・ 後続の DMAT 参集に伴う体制変更及び交替
- ・ 搬送患者の選定及び名簿作成
- ・ 被災地外広域搬送拠点への患者情報伝達

#### 【被災地内災害拠点病院】

- ・ 被災地内災害拠点病院への DMAT 支援（泉佐野病院）
- ・ 泉佐野病院での広域搬送基準に関するトリアージ及び広域医療搬送情報伝達用紙の作成。搬出順位の決定。  
     模擬患者は被災地内災害拠点病院に設定。

#### 【域内搬送】

- ・ 域内搬送手段の確保、運用
- ・ 災害拠点病院からの域内搬送  
     全ての模擬患者を域内搬送。  
     → 自衛隊アンビランス、消防アンビランス、防災ヘリ等  
     → 全ての域内搬送に DMAT が同乗

#### 【被災地外拠点】

- ・ 被災地外拠点担当の統括 DMAT の役割と連携
- ・ 被災地外自治体及び消防機関等との MiniSCU の設置、運営  
     非被災県（防災部局、医療部局）、空港事務所、緊急  
     消防援助隊機関、県内医療機関との連携  
     → 被災地外拠点に MiniSCU の必要性の検討
- ・ MiniSCU 設置に伴う資機材の確保、調達
- ・ SCU からの搬送患者情報の伝達
- ・ 受入病院の選定・確保
- ・ 受入病院までの搬送手段の確保（消防機関との連携）
- ・ 患者の収容及び搬送

#### 【機内訓練】

- ・ 自衛隊航空機内での医療機器等の機内換装
- ・ 航空機への患者搭載・固定
- ・ 航空機内における患者管理

#### 【情報伝達】

- ・ EMIS を使用した指示伝達（参集訓練を含む）
- ・ 活動状況入力を活用
- ・ 「広域医療搬送患者管理システム」の試行
- ・ IC カードを用いた参集 DMAT 隊員管理の試行  
関西空港 SCU に本部付情報班の設置

#### DMAT 事務局の係わり

- ・ 参加チームの調整
- ・ 訓練参加施設への協力依頼の発出
- ・ 各拠点における訓練調整事項の確認
- ・ 参加者の登録、名簿作成
- ・ 大阪府と関西空港必要資機材の調整
- ・ 参集 DMAT の携行資機材の調整
- ・ 訓練留意事項の作成・発行（No.1. ～No.3）
- ・ インストラクターマニュアルの作成・発行
- ・ 関係者連絡網の作成
- ・ EMIS による情報伝達訓練内容の検討、実施
- ・ 民間航空機参集チームの航空券の調整
- ・ その他



## 関西国際空港被災地内SCU活動



入港セキュリティーチェック



SCU外観 (関西国際空港消防)



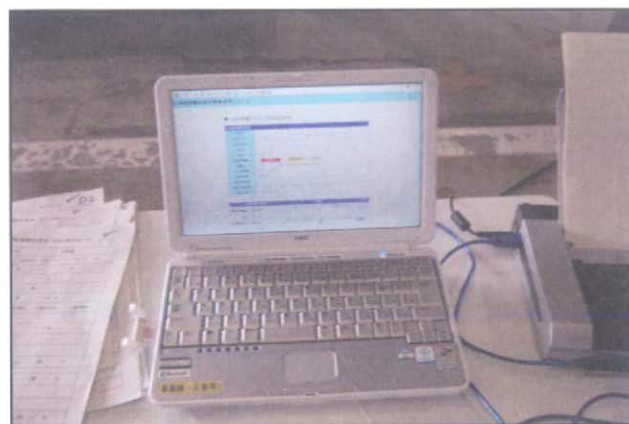
SCU大阪府本部



SCU\_DMAT本部



SCU\_DMAT本部情報班



EMISによる患者情報伝達